木の皮や葉を食べるカシミア山羊。５月初めに、毛を熊手で掻き取り、細くて短い肌毛だけを分けて利用する。１頭からカシミア約１５０㌘、マフラー１枚分が取れる＝2017年８月３日、モンゴル　ウブルハンガイ県ブルト地区（文・写真ともに東京農業大学、苗川博史客員教授提供）

ヒツジの毛であるウールの１０００倍顕微鏡写真。細かなウロコ様のスケールが見える。ヤギの毛であるカシミアでは、一つ一つのスケールはもっと大きい。ウールとカシミアを混ぜて作ったセーターがありますが、肉眼では違いがわからないので、混合率は顕微鏡写真で確認される＝オーストラリア連邦科学産業研究機構ホームページより

全身真っ黒なサフォーク品種の子羊。大きくなると顔と脚は黒いままだが、毛は徐々に白に変わる。毛色の遺伝は非常に複雑で、黒や白の他にも灰色、銀色、褐色、赤色、茶色などがあり、まだら模様も良く見られる＝４月３日、八ケ岳中央農業実践大学校

諏訪湖の石彫公園内にあるヒツジの彫刻。日本ではほとんど見られないメリノ品種のヒツジで、角があるのがオス、角の無いのがメス。ヒツジが散開しないようにシープドッグが見張っている＝４月11日、諏訪市石彫公園

八ケ岳山麓　ヒツジ編

動物ふれあい日記

４　ふわふわで柔らかな毛

１頭からセーター４着分の羊毛

ヒツジの毛刈りを毎年５月に行います。ヒツジをお尻だけで座らせ、人に背中をもたれかからせるとじっとします。そこで、胸、腹、尻、背の順で毛を刈り取ります。１頭から２㌔位の羊毛が取れます。セーター４着分位です。毛刈りをすると気づきますが、手がべとべとします。ラノリンという私たちの皮脂と同じような脂が羊毛に多量についています。写真のように、羊毛の表面はスケールというウロコ状になっており、湿ると閉じ、乾くと開きます。表はラッカーを塗ったように滑らかで水をはじき、内側は水を吸います。雨をはじき、汗を吸える構造です。この部分に湿気を加え、こすり合わせると絡み合って固いフェルトになるので、紗綾（しゃりょう）も作れます。ヤギの長い毛はカシミアになりますが、これらからはフェルトは作れません。毛糸1本を見るとよじれて見えますが、これが毛糸の強さの秘密です。２万回折り曲げても切れません。持ち帰ってセーターを編んでみませんか？

（八ケ岳中央農業実践大学校畜産部長、佐藤衆介）

＝随時掲載

スイスアルプス白ヒツジ。もともと肉用として作られた品種で、耳は長く垂れ下がり、毛は短く、とてもきれいなヒツジ。広い放牧地のどこにいるかを確かめられるように、首にカウベルが付けられている。ヒツジは世界中で900品種以上、12億頭も飼われている＝1993年6月22日、ミュンヘン郊外

佐藤衆介（さとう・しゅうすけ）

1978年に東北大学大学院農学研究科博士課程修了。80年から宮崎大学助手、88年から同大助教授を務める。94年に東北大学助教授に着任。2002年からは農業・生物系特定産業技術研究機構畜産草地研究所放牧管理部長。05年から東北大学大学院教授を務める。同大名誉教授。15年からは帝京科学大学教授。19年に八ケ岳中央農業実践大学校（原村）の畜産部長となり、現在に至る。主な著書は「アニマルウェルフェア」（東京大学出版会、2005）など。